

第33期第10回研究会「女の子文化・身体・メディア」（マルチメディア部会研究会企画）終わる

日時：2013年2月9日（土）14:00～17:00

場所：関西大学東京センター

問題提起者：水野麗（秋田工業専門学校）

討論者：田中東子（十文字学園女子大学）

司会：谷本奈穂（関西大学）

参加者：18名

記録執筆者：谷本奈穂（関西大学）

研究会の狙いは、大きな枠組みでとらえると「女の子文化・身体・メディア」の関わりを明らかにすることであり、今回はその中でも、一部の女の子に愛好されているゴシック・アンド・ロリータ（以下、ゴスロリ）と呼ばれるファッションを採り上げ、ゴスロリとメディアの関連、および身体との関連を探ろうとするものである。

問題提起者の水野氏は、「ゴスロリ雑誌における身体像の獲得」というタイトルで発表を行った。ゴスロリ雑誌は2004年に創刊ラッシュを迎えるが、現在ほとんどが休刊しているという。その中で生き残っている『ゴスロリバイブル』を詳しく検討し、他のファッション雑誌との違いを探った。そして、ゴスロリ雑誌には、他のファッション誌と違い、コーディネート指南がないこと、教養記事が多いことなどの特徴を指摘した。ゴスロリ実践者の「データベース的な自己身体像の獲得」が結論として導き出されている。途中で、デザイナーのデザインが平面的でゆがんでいるという話題、「ブサロリ」と呼ばれる一部のゴスロリ実践者の話題も提供された。

ディスカッションはまず、討論者の田中氏からは、ゴスロリとはファッションなのかコスチュームプレイ（コスプレ）なのかという問い、デザイナーのゆがみはゆがみではなく正しいのではないかという問い、教養ではなくオタクのたしなみではないのかなどの問いが出され、水野氏がそれに答える形で展開された。

そのあと、フロアからは、『ゴスロリバイブル』に関しては読者層に対する質問、ゴスロリファッションに関しては歴史的系譜を問い直すコメントや地域や年代の差異に対する質問、他には、ポピュラーミュージック（特にビジュアル系ロック音楽）との関連についてのコメント、アニメコスプレとの類似性の指摘などが続き、白熱したディスカッションが続いた。

ファッションとメディア、そして女性の文化について、参加者が討論し、それぞれに得たところがある、有意義な研究会となった。